

## パターン 22 - ② Beatles コード II (小節ごとの転調⇄ペンタトニック)

Verse (テーマ) & Ending (終止) → (ペンタ+シ& 4度ハーモニーの中華風メロディ)

Bridge (展開部)

### メモ

①ジョン&ポール、時間軸の逆回転と解釈、なぜビートルズ・コードか？

⇒ “A Day In The Life” を参考にした。C開始に移調すれば、テーマ部は | C | G | D | A | の、完全5度進行となる。実はこのパターンはありそうでなかなか無い。というのも、普通はドミナント→トニック(ドミナント・モーション、例; G→C、D→G)と進行するが、すべてが逆に連結されており、このことで、時間軸が逆回転したような印象も感じられないだろうか？

実際、ビートルズ・フレーズ(下記譜面)では、各小節がそれぞれ転調したメロディとなっている

②音源を聴いてみれば、Ending では、うまく完全終止できずDコードのまま終止している

③ペンタトニック(ド・レ・ミ・ソ・ラ)での即興が合わせやすい (今回、F開始へ移調した意義！)

⇒各小節をF→C、の流れをF(ハ)長調、C→Gの流れをC(ハ)長調、G→Dの流れをG(ト)長調、とそれぞれ解釈し、各調で4番目の音を抜いた即興で合わせやすい音設定(ペンタトニック+シ、という図式)に当てはめた場合、F長調での4番目の音=シ、C長調での4番目の音=ファ、G長調での4番目の音=D、となる。しかし、ドはF調、C調、G調にもともと含まれる音であるため省略せず、結果としてペンタトニックで即興することとした。ちなみにシはF調の構成音ではなく、ファもG調・D調の構成音ではない

③展開部は、“Strawberry Fields Forever(一部)” の雰囲気か？最後のAへの連結が良いかどうか？

⇒この展開部はファ&シ、を入れてもOK